

令和3年度全国学力・学習状況調査結果について

令和3年5月27日実施

1 調査対象

	対象学校数	児童生徒数
小学校（第6学年）	304校	約15,700人
中学校（第3学年）	164校	約15,700人

2 教科に関する調査

(1) 平均正答率

<小学校>

教科	平均正答率(%)	
	年度	R3年度
国語	本県	65
	全国	64.7
算数	本県	69
	全国	70.2

教科	年度	平均正答率(%)				
		H31年度 (R1年度)		H30年度	H29年度	
国語	本県	65	A知識	本県	71	75
				全国	70.7	74.8
	全国	63.8	B活用	本県	54	57
				全国	54.7	57.5
算数	本県	65	A知識	本県	62	78
				全国	63.5	78.6
	全国	66.6	B活用	本県	50	44
				全国	51.5	45.9
理科	本県		知識・活用	本県	61	
	全国			全国	60.3	

<中学校>

教科	平均正答率(%)	
	年度	R3年度
国語	本県	66
	全国	64.6
数学	本県	58
	全国	57.2

教科	年度	平均正答率(%)				
		H31年度 (R1年度)		H30年度	H29年度	
国語	本県	73	A知識	本県	77	79
				全国	76.1	77.4
	全国	72.8	B活用	本県	63	75
				全国	61.2	72.2
算数	本県	60	A知識	本県	67	65
				全国	66.1	64.6
	全国	59.8	B活用	本県	48	50
				全国	46.9	48.1
理科	本県		知識・活用	本県	69	
	全国			全国	66.1	
英語	本県	57				
	全国	56.0				

※各年度の平均正答率は、文部科学省が公表した数値で示している。

※英語は、「聞くこと」「読むこと」「書くこと」の結果である。

【全体的な傾向】

<小学校>

- 国語は、全国平均を上回った。
- 算数は、全国平均を下回った。

<中学校>

- 国語は、全国平均を上回った。
- 数学は、全国平均を上回った。

<その他>

- 無回答率については、小中学校ともにほぼ全ての設問で全国平均より低くなっており、問題に意欲的に取り組んでいることがうかがえる。

【現中学校3年生の小学校6年生当時(平成30年度)の調査結果との比較から】

- 出題形式が変わったこともあり、単純に比較することはできないが、小学校6年生当時は国語のA知識と理科以外、全国平均より下回っていたが、現中学校3年生になり、国語、数学ともに全国平均より上回った。

(2) 全国平均正答率と比較して特徴の見られる設問

- 各教科で全国平均と比較し、上位・下位の2項目を表に記載する。

<小学校>

	正答率(全国比較)	設問	問題の趣旨
国語	58.6%(+4.2)	3 三(1) ウ	・学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う (<u>つみ重ね</u>)
	71.0%(+4.0)	3 三(2) イ	・文の中における主語と述語との関係を捉える
	32.5%(-1.9)	2 三	・目的に応じ、文章と図表とを結び付けて必要な情報を見付ける
	27.4%(-2.3)	2 四	・目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約する
算数	68.1%(+0.6)	3 (3)	・データを二次元の表に分類整理することができる
	85.5%(+0.4)	1 (5)	・速さと道のりを基に、時間を求める式に表すことができる
	52.3%(-3.2)	4 (2)	・商が1より小さくなる等分除(整数)÷(整数)の場面で、場面から数量の関係を捉えて除法の式に表し、計算をすることができる
	51.1%(-4.0)	2 (1)	・三角形の面積の求め方について理解している

<中学校>

	正答率(全国比較)	設問	問題の趣旨
国語	46.9%(+6.6)	4 三	・相手や場に応じて敬語を適切に使う
	76.5%(+2.0)	2 二	・書いた文章を互いに読み合い、文章の構成の工夫を考える
	※全国平均と比較し、下回った設問はなし		
数学	79.6%(+2.5)	1	・整式の加法と減法の計算ができる
	66.7%(+2.4)	9 (2)	・錯角が等しくなるための、2直線の位置関係を理解している
	27.3%(-0.4)	6 (1)	・事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができる
	83.7%(-0.8)	8 (1)	・与えられたデータから中央値を求めることができる

(3)各教科の調査結果のポイント

<小学校>

国語	言葉や文の特徴について理解したり、文章全体の構成をとらえたりすることはできているが、目的に応じ文章と図表を結び付けて必要な情報を読み取ったり、それを短い文章で的確にまとめたりすることに課題がある。
算数	データを表に分類整理することや、速さと道のりを基に時間を求める式に表すことなど、基本的な技能は定着している。一方、三角形の面積の求め方への理解や、商が1より小さくなる等分除の場面で数量関係を捉えて除法の式に表し計算することなど、数式や図形に関わる性質や公式、立式等の意味の理解に課題がある。

<中学校>

国語	相手や場に応じて敬語を適切に使ったり、他者の文章構成の工夫に対して自分の意見を書いたりすることはできているが、文章の要旨（ものの見方や考え方）を読み取り、自分の考えを適切にまとめる力をさらに高める必要がある。
数学	整式の加法と減法の計算や、錯角が等しくなるための2直線の位置関係を理解することなど、基本的な計算技能や図形の性質に関わる知識は定着している。一方、与えられたデータから中央値を求めることや、関数関係を用いて数値を求める方法を考えて説明することなど、データの活用に関わる特定の知識・技能や日常生活に関わる問題の解決方法を説明することに課題がある。

3 質問紙による調査（全国平均と比較して特徴の見られるもの） ※【 】全国平均との差

(1)児童生徒質問紙

<小学校>

- ・今住んでいる地域の行事に参加している。【+6.3】
- ・5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していた。【+4.7】
- ・国語の勉強は好きである。【+4.5】
- ・土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日に2時間以上勉強をしている。【-2.4】
- ・5年生までに受けた授業で、コンピュータなどのICT機器を週に1回以上使用した。【-2.9】

<中学校>

- ・土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日に2時間以上勉強をしている。【+8.3】
- ・学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日に1時間以上勉強をしている。【+4.3】
- ・道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいると思う。【+4.1】
- ・数学の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考える。【-2.2】
- ・国語では、目的に応じて、自分の考えを話したり必要に応じて質問したりしている。【-3.5】

<小中学校共通>

- ・新型コロナウイルスの感染拡大で多くの学校が休校していた期間中、学校からの課題で分からないことがあったとき、先生や友達、家の人に聞いたり、自分で調べて解決しようとした。【小+17.2、中+7.9】

(2) 学校質問紙

<小学校>

- ・国語の指導として、前年度までに、補充的な学習の指導を行った。【+6.7】
- ・調査対象学年の児童に対して、前年度までに、将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導を行った。【+6.1】
- ・学校として外国語教育の充実に取り組む上で、必要な情報や研修、自己研鑽の機会などを十分に設けている。【+5.4】
- ・職場見学や職場体験活動を行っている。【-12.0】

<中学校>

- ・全国学力・学習状況調査の結果を、課題が見られた点を中心として校内研修を実施し、授業改善に活用している【+5.5】
- ・調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫を行った。【+5.2】
- ・数学の指導として、前年度までに、観察や操作、実験などの活動を通して、数量や図形などの性質を見いだす活動を行った。【+4.3】
- ・地域学校協働本部やコミュニティ・スクールなどの仕組みを生かして、保護者や地域の人との協働による活動を行った。【-10.3】

<小中学校共通>

- ・平成31年度全国学力・学習状況調査の結果を、学校が独自に実施するテスト等を作問する際に参考とした。【小-9.9、中-8.1】
- ・校内外の研修や研究会に参加し、その成果を教育活動に積極的に反映させている。【小-12.2、中-8.3】
- ・平成31年度全国学力・学習状況調査の分析結果について、近隣等の小中学校と成果や課題を共有した。【小-17.8、中-15.0】

4 今後の取組

<県教育委員会>

○「全国学力・学習状況調査」分析・活用委員会の開催（令和3年度より）

県教委義務教育課、各教育事務所の指導主事を構成員とし、本県の児童生徒の学力向上に資するため、「全国学力・学習状況調査」の調査問題や結果を分析するとともに、分析結果の有効活用の仕方や、今後の各学校における授業改善に向けた対応策等について協議する。

○「全国学力・学習状況調査」の児童生徒向け解説動画の活用促進

「全国学力・学習状況調査」の主旨及び成果や課題を踏まえ、各学校での児童生徒の学力向上及び教職員の授業改善を支援するため、「全国学力・学習状況調査」の問題に関する児童生徒向けの解説動画を作成し、6月末よりYouTubeに公開している。

今後、「全国学力・学習状況調査」の分析結果を踏まえ、授業改善のポイントや、すでに公開されている解説動画の有効的な活用を示したリーフレットを作成し、周知していく。

※公開教科と本数：<小学校>国語3本、算数4本 <中学校>国語4本、数学5本

○「ICTを活用した群馬ならではの新しい学び」の推進

全ての学校において1人1台端末を活用した個別最適な学びと協働的な学びが展開されるよう、その参考となる指導資料『「はばたく群馬の指導プランⅡ」ICT活用Version』（義務教育課HP掲載）の活用を周知するとともに、ICT活用促進プロジェクトのモデル校（33校）における授業実践や研究等の成果を全県へ普及する。

○小中学校長会との連携

小学校長会、中学校長会理事研修会等で、「全国学力・学習状況調査」の分析結果等について説明するとともに、各学校での児童生徒の学力向上及び教職員の授業改善を支援するために作成した「全国学力・学習状況調査の問題に関する児童生徒向けの解説動画」の有効的な活用を示したリーフレットを周知する。

○総合教育センターにおける教員向け研修の一層の充実

現在、総合教育センターにおいて実施している教職員向け研修について、各市町村教育委員会や、小学校長会、中学校長会理事研修会等を通じて、それらを有効活用するよう促すとともに、今日的な教育課題に対応した研修内容及び研修方法の充実を図る。

<市町村教育委員会>

- 国から送付された各市町村の結果を、国や県全体の結果と比較するなどして、各市町村教育委員会の課題を明確にし、教育施策の改善に取り組む。

<学校>

- 自校の結果と国や県全体、市町村の結果との比較、課題のある設問の分析、正答数分布の分析など、様々な面から調査結果を分析することにより、自校の課題を明らかにする。
- 分析結果を基に、これまでの取組を検証し、各学校が設置している学力向上委員会を核に組織的・継続的に授業改善に取り組む。
- 児童生徒一人一人の結果を示した個人票や解答状況整理表（S-P表）を活用し、個々の児童生徒の学力の状況を把握し、日々の指導に生かす。
- 県教委作成の「全国学力・学習状況調査の問題に関する児童生徒向けの解説動画」を活用し、児童生徒の学力向上及び各学校における授業改善を図る。